

自然と文化科 [猪名川下流を歩く観察記録]

日時	2024 年 5 月 24 日阪急園田駅下車徒歩 10 分西浦公園 10:00 集合	担 当 者
行程	園田駅～西浦公園→猪名川自然林→猪名川河川敷→田能遺跡（昼食）→猪名川堤防→千里川土手→緩衝緑地帯→阪急岡町駅まで約 8 ㎞。	文：堂瀬 広幸 写真：寺尾 修
備考	参加者 / 1 班 15 名/ 2 班 17 名/ 3 班 16 名/ 4 班 11 名/＝計 59 名 観察リーダー/1 班：武川 / 2 班：遊上（全体リーダー） / 3 班：橋本 / 4 班：大野	

このコースは以前も数回訪問しており皆様もご存じの処と察します。

猪名川の左岸、右岸の土手を登ったり下りたりその間に神社、遺跡にも立ち寄って見聞しました。
面白い所は昔蛇行していた猪名川を昭和 59 年から 5 年間、洪水対策として公費 14 億 8 千万円をかけて直線化したため、自然の植生、大阪の河畔林の姿が今に残る～と資料にあります。

代表挨拶後、標高 3～5 ㍎を雨の心配も無く夏日晴天の中“西浦公園”スタート



「猪名川旧左岸堤防跡」

樹木多く、鼠麴（白い小花が満開！香りも漂う！）、椋木（青い実が!）、藪肉桂（蕾多し!）、榎（紫の花が）、秋楡、檜、等々

「猪名川自然林」自然と文化の森協会は
“自然と文化の森構想”の推進を担う中
核組織として、市民有志が設立した。



落葉樹は榎、椋木、赤芽柏、支那沢胡桃、常緑樹は粗榧、檜、黒鉄鼈、唐鼠麴、楠木、元からあった木と植栽した樹木が交じっている。

「十九とうく神社」のご神木、樟（樹齢 250 年）、榎（樹齢 400 年）其々注連縄で祀っている。古代から猪名川流域の洪水に悩まされ祈ったであろう。

「猪名川河川敷」背高葦、大立柳、栴檀、篋大葉子、西洋辛子菜、瘦靱、西洋引蓬、弱草藤、米粒詰草 等々欧州、アジアからの帰化植物も多し！

円形平地住居（現在の田能 6 丁目）



「田能遺跡」昼食&見学

昭和 40 年 9 月工業用水建設現場から偶然大量の弥生土器を発見！10 月から約 1 年間の発掘調査では“碧玉製管玉”“白銅製釧”“銅剣鏝型”

この 3 点は県指定文化財に！大変貴重な遺物が出土し田能遺跡と名付けられた。



発見当時近畿地方ではほとんど出土例が無かった木棺墓が人骨と共に発見され弥生時代の墓制に新たな知見が加わりました。当時田能の集落は猪名川の河口に位置していたため、豪華な服装品をもっていた人々は此处で物資を集積し、近畿の集落に物資を差配する権限と役割を担っていたのではないかと考えられています。「アドプト・リバー・千里」と云う看板がありました。アドプトとは養子にするという意味です。このプログラムは地元の皆さんに河川の育て親になってもらい綺麗な河川や住みよい環境を育てていくというものです～看板あり！ 緩衝緑地帯と云えばおわかりですね！しかし我々は飛行機の着陸を眼の当たりに見れるという目的だけです！後～帰路「岡町駅」へ～今日は当科の「自然と文化」を堪能した一日でした。これにて“了”といたします。

※植物の種名を漢字で綴っておりますが又違った印象でよろしいかと・・・